

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：32510

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00695

研究課題名(和文) 多様な英語への対応力を育成するウェブ教材を活用した教育手法の研究

研究課題名(英文) Web-based Educational Pedagogy for the Development of Communication Skills to Accommodate Varieties of English

研究代表者

矢頭 典枝 (Yazu, Norie)

神田外語大学・外国語学部・教授

研究者番号：10512379

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,900,000円

研究成果の概要(和文)：本科研では、前科研(課題番号：24320106)で開発した欧米の英語を中心とする7つの英語変種に関するウェブ教材に続き、5つの英語変種、すなわち、インド英語、フィリピン英語、マレーシア英語、スコットランド英語、ウェールズ英語の特徴を学ぶことができるウェブ教材を開発した。これらを活用して、大学生、高校生、英語教員、社会人を対象に多様な英語の特徴を教え、本教材が有効であることを実証した。研究成果として、アジア英語の特徴や「国際共通語としての英語」を中心とする論文と図書を刊行し、研究発表を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アメリカ英語を規範としつつ、世界各国からの外国人が英語を教える日本の英語教育では、それ以外の英語変種、特にアジア英語に対する否定的な意見が聞かれる。本研究では、このウェブ教材を活用して日本の英語学習者に多様な英語変種の特徴を教えるとともに、アジア人英語話者が彼らの文化を英語に反映させ、彼らのニーズに合うようにアレンジして「国際共通語」として英語を話している事実を強調することが多様な英語変種に対する意識改革につながる、という学術的知見を得た。無料で配信されているこの教材は、大学の授業だけでなく、高校生、英語教員、一般の社会人にも幅広く利用されているため、社会的意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：Our team has developed and released a free online learning website which depicts the linguistic and cultural features of 5 English varieties (Indian English, Philippine English, Malaysian English, Scottish English, Welsh English). These English varieties are part of the "World Englishes Project," which developed 7 English varieties (American, British (Estuary), Australian, New Zealand, Canadian, Irish and Singapore) with our previous JSPS funding (no. 24320106). The validity of this website was confirmed when our team members taught students of universities and high schools, English teachers and some other people. Based on these experiences, we have published papers and books and gave presentations in conferences mainly on Asian Englishes and English as a Lingua Franca.

研究分野：社会言語学

キーワード：ウェブ教材 社会言語学 世界の英語 World Englishes 英語変種 英語教育 アジア英語

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

アメリカ英語を規範とする日本の英語教育の現場では、近年、多様な出身国の教員が教鞭をとる状況が観察され、学習者だけでなく、日本人教員も戸惑う状況が報告されている。日本では英語の多様性を前向きに捉え、アメリカ英語以外の英語は「間違い」とであるという意識を改めるときにきている。その認識のもとに、日本人が多様な英語変種の違いを体系的に学習できる社会言語学的変異研究に基づいた「英語会話モジュール」が、科研費(基盤研究(B))2012-2015年度、課題番号:24320106、研究代表者:関屋康、以下「前科研」とする)を受けて開発された。

本研究開始当初の2018年度は、前科研で開発された欧米の英語変種を中心とする7つの英語モジュールがすでに開発されていた。それらは、アメリカ英語、イギリス(エスチュアリー)英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、カナダ英語、アイルランド英語、シンガポール英語であった。これらに加え、本研究では、インド英語、フィリピン英語、マレーシア英語の3つのアジア英語、方言分化が著しいイギリスの英語として2つの英語変種、すなわちスコットランド英語とウェールズ英語のモジュールの開発に着手した。

## 2. 研究の目的

本研究では、アジア英語を中心に、日本人が接する機会が増えてきたにもかかわらず、これまで日本人学習者向けの教材がなかった英語変種を新コンテンツとして加え、アメリカ英語を規範とする従来の英語教育の方向性に風穴をあけ、多文化理解を前提とした英語教育を切り開くことを目的とするものであった。さらに、本研究では調査対象を学生だけでなく、英語教員や社会で実際に多様な英語変種に接している人々にも拡大し、本ウェブ教材を活用して、その教育効果を検証し、そのうえで、「共通語としての英語(English as a lingua franca)」の視点から、多様な言語文化・背景出身の英語使用者同士が英語変種を超えてコミュニケーションをとる能力を育成する英語教育の手法を確立することを目指した。

## 3. 研究の方法

### (1) 開発対象となる英語変種の調査・分析

開発対象となる英語変種について、音声学や社会言語学などの分野における先行研究を分析し、それぞれの英語に特徴的な社会言語学的変異を選定し、その代表性について複数の研究者からの意見・アドバイスを得た。次に、選定された変異を実現する語彙、語法のリストを作成し、実際の英語コーパス(話し言葉と書き言葉の両方を含む)のなかで、それらが言語運用の観点からも変異形と見なされるかどうかを調査した。最終的に英語会話モジュールのなかに記載されるべき変異形を語彙、語法とともにリスト化した。

### (2) 会話スクリプトの作成

東京外国語大学言語モジュールの40の言語機能(挨拶する、感謝する、注意をひく等)に合う状況設定を行い、上記の変異形を用いた40の会話を作成した。会話スクリプトの作成は、当該地域を出身とする研究協力者たちが担当し、それを本研究の研究者たちが調整し、当該地域の英語を専門とする海外協力者が監修した。

### (3) スタジオ収録

神田外語大学と東京外国語大学でスタジオ収録を行った。出演は、インド英語モジュールはデリー大学の教員と東京外国語大学のインド人留学生、フィリピン英語はデラサル大学の教員と大学院生および東京外国語大学の教員など、マレーシア英語モジュールはマラヤ大学の教員と学生、スコットランド英語モジュールは神田外語大学と立教大学の教員と日本在住のスコットランド人、ウェールズ英語モジュールは神田外語大学の外国人教員たちが担当した。

### (4) 英語字幕、日本語訳、発音記述、語彙記述

日本人研究協力者(言語研究を専門とする大学院生など)が英語字幕と日本語訳を作成した。また、英語音声学を専門とする日本人研究協力者が動画の音声の発音を分析して記述し、英語学を専門とする日本人研究協力者が当該英語変種に特有な語彙を記述した。それらを本科研の研究分担者と代表者が監修した。

### (5) ウェブ化

ウェブ化は東京外国語大学の「TUFUS 言語モジュール」の「会話モジュール」用のウェブ入力システムを利用し、両大学の技術者がそれぞれのウェブページを作成した。

## 4. 研究成果

(1) 5つの英語会話モジュールを開発し、神田外語大学と東京外国語大学の専用ウェブサイトで公開した。(上が神田外語大学の専用サイト、下が東京外国語大学の専用サイト。)

インド英語(2019年3月公開)

[http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en\\_in.html#/jp-00](http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_in.html#/jp-00)

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-in/dmod/>

フィリピン英語 (2020年3月公開)

[http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en\\_ph.html#/jp-00](http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_ph.html#/jp-00)

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-ph/dmod/>

マレーシア英語 (2021年3月公開)

[http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en\\_ms.html#/jp-00](http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_ms.html#/jp-00)

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-ms/dmod/>

スコットランド英語 (2022年3月公開)

[http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en\\_sct.html#/jp-00](http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_sct.html#/jp-00)

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-gb-sct/dmod/>

ウェールズ英語 (2022年6月公開)

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-gb-wls/dmod/>

[http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en\\_wls.html#/jp-00](http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_wls.html#/jp-00)

(2) 本テーマを扱った講演会と国際集会を行った。

国際集会 Mapping English in India in time and space (Shobha Satyanath、2018年7月6日、東京外国語大学)

講演会「多文化社会インドとインド英語」(Shobha Satyanath、Richa Sharma、2018年7月10日、神田外語大学)

国際集会 Philippines and Philippine English: An Overview (Shirley Dita、2019年7月12日、東京外国語大学)

講演会「フィリピン英語と World Englishes - Philippine English and World Englishes (Shirley Dita、2019年7月16日、神田外語大学)

国際集会 Putting CEFR into Malaysian English Language Education: The Debates Surrounding Its Implementation (Stefanie Pillai、2019年9月27日、東京外国語大学)

講演会「シンガポール英語より面白い!? マレーシア英語の世界」The Malaysian Variety of English: Broken or "New(ish) English? (Stefanie Pillai、2019年10月1日、神田外語大学)

(3) 雑誌論文 28 本、図書 (共著含む) 8 冊を刊行し、学会等における報告を 24 件行った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 18件）

1. 著者名 矢頭典枝、関屋康、小中原麻友、川口裕司、斎藤弘子、吉富朝子、梅野毅	4. 巻 -
2. 論文標題 スコットランド英語会話モジュール	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 KANDA x TUFSS英語モジュール、東京外国語大学言語モジュール英語	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 矢頭典枝、関屋康、小中原麻友、川口裕司、斎藤弘子、吉富朝子、梅野毅	4. 巻 -
2. 論文標題 ウェールズ英語会話モジュール	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 KANDA x TUFSS英語モジュール、東京外国語大学言語モジュール英語	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 矢頭典枝、関屋康	4. 巻 32
2. 論文標題 アジア英語に共通する発音の特徴: KANDA X TUFSS英語モジュールのインド、フィリピン、シンガポール、マレーシア版を分析対象に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『言語教育研究』	6. 最初と最後の頁 71-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yasushi Sekiya	4. 巻 27
2. 論文標題 Teaching English pronunciation to Japanese students in the era of English as an international language: Models, goals, and intelligibility revisited	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『言語科学研究』	6. 最初と最後の頁 79-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 矢頭典枝、関屋康、小中原麻友、川口裕司、斎藤弘子、吉富朝子、梅野毅	4. 巻 -
2. 論文標題 マレーシア英語会話モジュール	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 KANDA x TUFS英語モジュール、東京外国語大学言語モジュール英語	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢頭典枝	4. 巻 -
2. 論文標題 KANDA x TUFS 英語モジュール「アジア英語版」にみる社会的・文化的特質：インド、フィリピン、マレーシア版を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 研究プロジェクト 『アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究 - 研究成果報告書(2018 - 2020) - 』	6. 最初と最後の頁 99-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroko Saito	4. 巻 25
2. 論文標題 “Acquisition of L2 English intonation by Japanese learners”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京外国語大学語学研究所 『語学研究所論集』 第25号	6. 最初と最後の頁 41-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asako Yoshitotmi	4. 巻 2021(2)
2. 論文標題 “Developing an Assessment System of Speaking Skills in English as a Foreign Language Based on CEFR-J.”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Impact	6. 最初と最後の頁 56-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mayu Konakahara	4. 巻 170
2. 論文標題 Single case analyses of two overlap sequences in casual ELF conversations from a multimodal perspective: Toward the consideration of mutual benefits of ELF and CA	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 301-316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2020.09.024	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuji Kawaguchi	4. 巻 -
2. 論文標題 Standardization and distance -Case of Linguistic Atlas of Champagne and Brie (ALCB)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of Methods XVI, Papers from the sixteenth international conference on Methods in Dialectology, 2017	6. 最初と最後の頁 269-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢頭典枝、関屋康、小中原麻友、川口裕司、斎藤弘子、吉富朝子、梅野毅	4. 巻 -
2. 論文標題 フィリピン英語会話モジュール	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 KANDA x TUFS英語モジュール、東京外国語大学言語モジュール英語	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 関屋康、矢頭典枝	4. 巻 30
2. 論文標題 KANDA x TUFS 英語モジュールにみる インド英語の発音の特徴	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語教育研究	6. 最初と最後の頁 99-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢頭典枝	4. 巻 25
2. 論文標題 Teaching Canadian Studies in Japanese Universities	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Journal of Canadian Studies	6. 最初と最後の頁 5-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Konakahara, M., Murata, K., & Iino, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 'English' -medium instruction in a Japanese university: Exploring students' and lecturers' voices from an ELF perspective	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 In K. Murata (Ed.), English-Medium Instruction from an English as a Lingua Franca Perspective: Exploring the Higher Education Context	6. 最初と最後の頁 157-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murata, K., Iino, M., & Konakahara, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Realities of EMI practices among multilingual students in a Japanese university	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 In J. Jenkins & A. Mauranen (Eds.), Linguistic Diversity on the International Campus. Oxon: Routledge.	6. 最初と最後の頁 149-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Konakahara, M. & Tsuchiya, K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Introduction: English as a lingua franca in Japan - Towards multilingual practices	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 English as a lingua franca in Japan: Towards multilingual practice, Switzerland: Palgrave.	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Konakahara, Mayu	4. 巻 -
2. 論文標題 From “English as a native language” to English as a lingua franca: Instructional effects on Japanese university students’ attitudes towards English.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 In M. Konakahara & K. Tsuchiya (Eds.), English as a lingua franca in Japan: Towards multilingual practice (pp. 183-210). Switzerland: Palgrave.	6. 最初と最後の頁 183-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Zhou, Y. & Yoshitomi, A.	4. 巻 9-10
2. 論文標題 Test-taker Perception of and Test Performance on Computer-delivered Speaking Tests: The Mediatlional Role of Test-taking Motivation.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Language Testing Asia	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40468-019-0086-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤弘子	4. 巻 -
2. 論文標題 聞くに効く：Web限定のリスニングポイント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 コンパスローズ英和辞典、研究社	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川口裕司	4. 巻 22
2. 論文標題 Pronunciation of phoneme /r/ by Japanese learners of Turkish	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外国語教育研究 JAFLE Bulletin	6. 最初と最後の頁 247-260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 矢頭典枝、関屋康、小中原麻友、川口裕司、斎藤弘子、吉富朝子、梅野毅	4. 巻 -
2. 論文標題 インド英語会話モジュール	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 KANDA x TUFS英語モジュール、東京外国語大学言語モジュール英語	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢頭典枝	4. 巻 1
2. 論文標題 KANDA x TUFS英語モジュール「シンガポール英語版」にみる社会的・文化的特質	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成27-29年度 科学研究費助成事業 基盤研究(B)研究プロジェクト『アジア諸語の社会的・文化的多様性を考慮した通言語的言語応力達成度評価法の総合的研究 成果報告書(2015-2017)ー』	6. 最初と最後の頁 59-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢頭典枝	4. 巻 6
2. 論文標題 英語の多様性について教える 観点からみる通訳ボランティア育成	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『グローバル・コミュニケーション研究』	6. 最初と最後の頁 73-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢頭典枝	4. 巻 7
2. 論文標題 多文化社会カナダのバイリンガル国家運営 英語とフランス語が国民をつなぐ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『グローバル・コミュニケーション研究』	6. 最初と最後の頁 123-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉富朝子	4. 巻 21
2. 論文標題 第二言語習得論を踏まえたスピーキング指導	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『外国語教育研究』	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村田久美子, 小中原麻友, 飯野公一, 豊島昇	4. 巻 32/1
2. 論文標題 EMI (英語を媒介とする授業) とビジネス現場における「共通語としての英語」への意識調査、および英語教育への提言	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『早稲田教育評論』	6. 最初と最後の頁 55-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sekiya, Y., S. Park, and R. Tsuji	4. 巻 29
2. 論文標題 Effects of Short-Term Study Abroad Programs	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『言語教育研究』	6. 最初と最後の頁 161-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口裕司、	4. 巻 44
2. 論文標題 A Sociolinguistic Analysis of the Indefinite Pronoun ON in Northern France : Evidence from the Atlas Linguistique de la France	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Flambeau	6. 最初と最後の頁 135-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件（うち招待講演 14件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 Yasushi Sekiya, Norie Yazu
2. 発表標題 Acclimating Japanese learners of English to some Asian English accents through the use of the KANDA-TUFS World Englishes Modules
3. 学会等名 JALT 47th International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢頭典枝
2. 発表標題 中間言語の視点からみる TUFS-KANDA英語モジュール「アジア英語版」の特殊性
3. 学会等名 「言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」科研B<第二回研究会> (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mayu Konakahara
2. 発表標題 Tackling a Monolingual View of English among Japanese University Students through ELF-Informed Instruction: What, How, and Afterward.
3. 学会等名 JALT Kyoto: Teaching Global Englishes (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉富朝子
2. 発表標題 日本の英語教育への語用論指導導入に向けて
3. 学会等名 ACET SLA研究会2021年度第4回オンライン講演会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 関屋康
2. 発表標題 自律的英語学習者を育てるための授業のヒント
3. 学会等名 東京都立桜修館中等教育学校（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢頭典枝、関屋康
2. 発表標題 世界の英語モジュール
3. 学会等名 神田外語大学 Community Open Day 英語教育公開講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関屋康
2. 発表標題 Teaching English pronunciation to Japanese students in the era of English as an international language
3. 学会等名 JALT 茨城支部学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mayu Konakahara
2. 発表標題 Negotiating mutual understanding by disagreeing: An analysis of unmitigated disagreement in ELF interactions
3. 学会等名 The 16th International Pragmatics Conference (IPrA2019), The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong. (12th June 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉富朝子
2. 発表標題 TUFS Recordとディプロマ・サブリメントにおけるCEFR-Jに準拠した言語力可視化の取り組み.
3. 学会等名 TOEIC IIBCセミナー in 東京：学生の将来を後押しする大学の取り組み～社会のニーズから考えるTOEIC Programの活用～, 事例発表 東京外国語大学・国際ビジネスコミュニケーション協会主催（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Zhou, Yujia, Dunlea Jamie Dunlea, Negishi Masashi, O'Sullivan, Barry, and Yoshitomi Asako
2. 発表標題 Gathering a posteriori validity evidence of a computer-based speaking test for Japanese university admission.
3. 学会等名 第22回日本語テスト学会全国研究大会 新潟青陵大学（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuji Kawaguchi
2. 発表標題 Interlanguage of Japanese Learners of Turkish: Some characteristics
3. 学会等名 International Workshop. Contrastive Interlanguage Analysis: French, Japanese, Turkish. Variations in the First Language and Interlanguage, The 9th Meeting of JSPS Research Project（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川口裕司
2. 発表標題 研究動向報告 2019 言語研究の諸相
3. 学会等名 日本学術振興会学術システム研究センター（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢頭典枝
2. 発表標題 外国語教育と言語政策 未来の在り方(パネル・ディスカッション)
3. 学会等名 未来の教育コンテンツEXPO、一般社団法人日本教育基準協会未来の教育コンテンツEXPO実行委員会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 矢頭典枝
2. 発表標題 東京外国語大学・神田外語大学共同開発の無料ウェブ教材「世界の英語モジュール」(セミナー)
3. 学会等名 未来の教育コンテンツEXPO、一般社団法人日本教育基準協会未来の教育コンテンツEXPO実行委員会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mayu Konakahara
2. 発表標題 How do Japanese students develop their attitudes towards English through and after ELF-informed instruction?: An interim report of longitudinal research.
3. 学会等名 The 11th International Conference of English as a Lingua Franca. London, the UK. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mayu Konakahara
2. 発表標題 Conversation Analysis and ELF: Contributing to CA theory - Multimodal analysis of ELF interactions: What can it give to CA and vice versa?
3. 学会等名 The 11th International Conference of English as a Lingua Franca. London, the UK. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Murata, K., Iino, M., Terauchi, H. and Konakahara, M.
2. 発表標題 Multilingual and translanguaging communication in Asian workplace settings: the role of ELF and local languages among multilingual business people in Asia.
3. 学会等名 The 11th International Conference of English as a Lingua Franca. London, the UK. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mayu Konakahara
2. 発表標題 Exploring Epistemological Expansions of ELF: Integrating Multimodality and Rethinking Cooperativeness in ELF Pragmatics Research - Multimodal interactional analysis of third-party complaint sequences in casual ELF conversation.
3. 学会等名 2019 conference of the American Association for Applied Linguistics (AAAL). (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関屋康
2. 発表標題 Teaching Competency in the Japanese EFL Classroom: Any Secret Ingredients?
3. 学会等名 千葉県教育委員会主催 高等学校英語科教員指導力向上研修 基調講演 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉富朝子
2. 発表標題 第二言語習得論を踏まえたスピーキング指導
3. 学会等名 外国語教育学会シンポジウム「外国語教育におけるスピーキング指導」基調講演 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉富朝子
2. 発表標題 英語スピーキング学習はどうすべきか：第二言語習得理論を踏まえた提案
3. 学会等名 昭和女子大学特殊研究講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Zhou Yujia, Dunlea Jamie, Negishi Masashi, Yoshitomi Asako
2. 発表標題 Localisation of an international speaking test for Japanese university admission
3. 学会等名 The 6th British Council New Directions in English Language Assessment Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Zhou Yujia, Dunlea Jamie, Negishi Masashi, Yoshitomi Asako
2. 発表標題 Collecting a priori validity evidence during the development of a computer-based speaking test for Japanese university admission purposes
3. 学会等名 The 1st JAAL (The Japan Association for Applied Linguistics Conference in JACET)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuji Kawaguchi
2. 発表標題 What the ALF does not tell us
3. 学会等名 Komatsu Round-Table Conference on Geo-linguistics, Komatsu University (国際学会)
4. 発表年 2018年



〔図書〕 計8件

1. 著者名 川口裕司（庄司博史編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 430
3. 書名 世界の公用語事典	

1. 著者名 加藤 聡子、山下 尚子、関屋 康、ジョー・マイナード	4. 発行年 2021年
2. 出版社 神田外語大学出版局	5. 総ページ数 137
3. 書名 英語教師のための 自律学習者育成ガイドブック	

1. 著者名 矢頭典枝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 アルク EJ新書	5. 総ページ数 50
3. 書名 『あなたの知らない世界の英語』（電子書籍）	

1. 著者名 日本カナダ学会編（矢頭典枝共編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 380
3. 書名 『現代カナダを知るための60章』	

1. 著者名 川口裕司 (監修)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 768
3. 書名 デイリー日本語・トルコ語・英語辞典	

1. 著者名 赤須薫 (編者)、斎藤弘子 (編者：発音)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 2259
3. 書名 『コンパスローズ英和辞典』	

1. 著者名 野村恵造 (編集主幹)、吉富朝子、他多数	4. 発行年 2018年
2. 出版社 旺文社	5. 総ページ数 2080
3. 書名 『コアレックス英和辞典、第3版附属音声サイト：機能別会話・場面会話執筆担当』	

1. 著者名 Sylvain DETEY Jacques DURAND Bernard LAKS Chantal LYCHE 編著 / 川口裕司 矢頭典枝 秋廣尚恵 杉山香織 日本語版編訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 232
3. 書名 『フランコフォンの世界』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	関屋 康 (Sekiya Yasushi) (20196968)	神田外語大学・外国語学部・教授  (32510)	
研究分担者	小中原 麻友 (Konakahara Mayu) (80580703)	神田外語大学・外国語学部・准教授  (32510)	
研究分担者	斎藤 弘子 (Saito Hiroko) (10205669)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  (12603)	
研究分担者	川口 裕司 (Kawaguchi Yuji) (20204703)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  (12603)	
研究分担者	吉富 朝子 (Yoshitomi Asako) (40272611)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  (12603)	
研究分担者	梅野 毅 (Umeno Takeshi) (10722340)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・助手  (12603)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 Plurilingual Situation and Language Education in the Philippines, Dr. Shirley Dita、2019年7月12日、於：東京外国語大学語学研究所	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Putting the CEFR into Malaysian English Language Education: The Debates Surrounding Its Implementation, Dr. Stefanie Pillai、2019年9月27日、於：東京外国語大学語学研究所	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 東京外国語大学語学研究所国際研究集会 "Mapping English in India in Time and Space"	開催年 2018年～2018年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------